

# 令和2年 千葉県鉱工業指数年報の概況 (平成27年基準)

短期経済観測の資料とするため、毎月「千葉県鉱工業指数月報」を発行し、鉱工業の生産・出荷・在庫・在庫率指数を公表しております。  
このたび、年間補正及び季節指数の改定を行った上で、令和2年の1年間の動向を年報として公表しましたので紹介します。

統計課 工業班  
電話 043-223-2227

## 概況

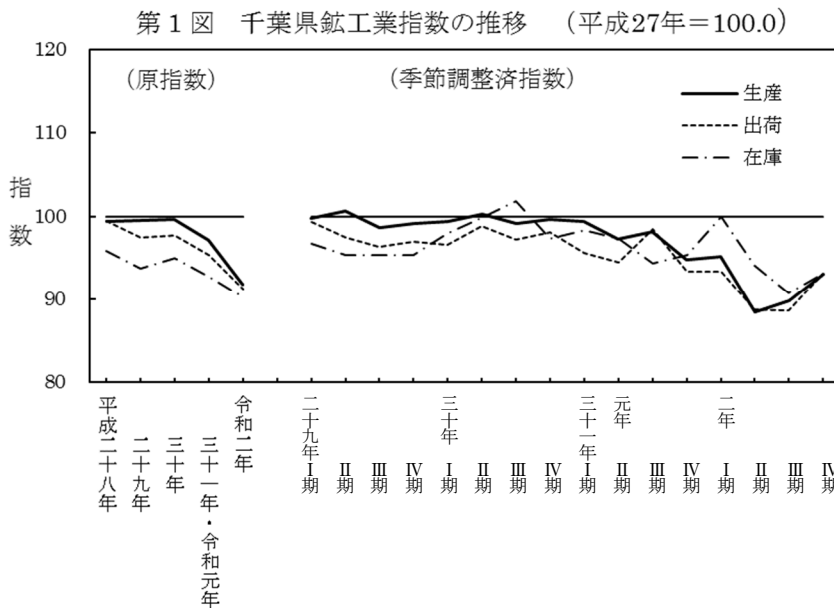
### — 生産・出荷・在庫は低下，在庫率は上昇 —

令和2年の千葉県鉱工業指数をみると、生産指数は、91.8で前年比△5.6%と2年連続の低下、出荷指数は、91.3で同△4.2%と2年連続の低下、在庫指数は、90.2で同△2.7%と2年連続の低下、在庫率指数は、114.8で同7.8%と4年連続の上昇となりました。

令和2年を四半期別にみると、生産指数は、Ⅰ期・Ⅲ期・Ⅳ期が上昇、Ⅱ期が低下となりました。出荷指数は、Ⅰ期が横ばい、Ⅱ期・Ⅲ期が低下、Ⅳ期が上昇となりました。在庫指数は、Ⅰ期・Ⅳ期が上昇、Ⅱ期・Ⅲ期が低下となりました。在庫率指数は、Ⅰ期・Ⅱ期が上昇、Ⅲ期・Ⅳ期が低下となりました。

令和2年の生産と在庫の関係を在庫局面でみると、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期は「在庫調整局面」に位置し、Ⅳ期は「意図せざる在庫減局面」に位置しました。

(第1図・第2図・第1表参照)

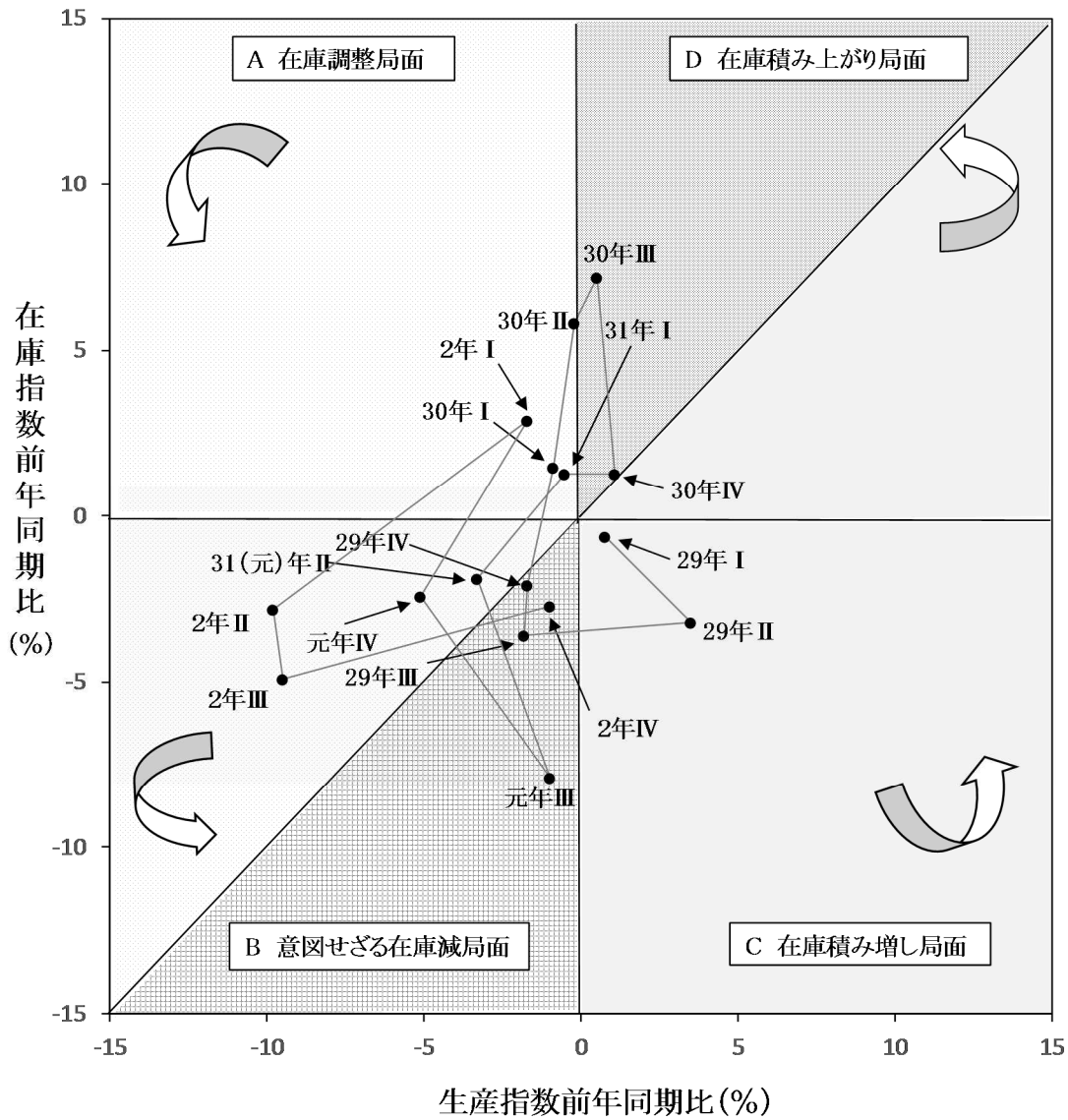


第1表 千葉県鉱工業指数及び前年比・前期比増減率

年・期 指数	28年	29年	30年	31年 元年	令和 2年	令和2年			
						Ⅰ期 (1~3月)	Ⅱ期 (4~6月)	Ⅲ期 (7~9月)	Ⅳ期 (10~12月)
生産指数	99.4	99.5	99.6	97.2	91.8	95.2	88.5	89.8	93.0
前年比・前期比(%)	△0.6	0.1	0.1	△2.4	△5.6	0.4	△7.0	1.5	3.6
出荷指数	99.5	97.5	97.7	95.3	91.3	93.4	88.7	88.6	93.1
前年比・前期比(%)	△0.5	△2.0	0.2	△2.5	△4.2	0.0	△5.0	△0.1	5.1
在庫指数	95.8	93.8	95.0	92.7	90.2	100.0	94.1	90.8	93.1
前年比・前期比(%)	△4.2	△2.1	1.3	△2.4	△2.7	4.9	△5.9	△3.5	2.5
在庫率指数	98.5	99.5	101.6	106.5	114.8	110.3	121.8	117.1	108.9
前年比・前期比(%)	△1.5	1.0	2.1	4.8	7.8	2.2	10.4	△3.9	△7.0

※暦年指数値は原指数，四半期指数値は季節調整済指数

第2図 生産・在庫の関係と在庫局面(在庫循環図)



各在庫局面の説明

- A** 在庫調整局面 …… 在庫過剰のため、生産を抑えて在庫を調整する。  
(景気後退期)
- B** 意図せざる在庫減局面 …… 需要が回復し始めるが、生産は停滞しており、在庫が減少する。  
(景気拡大初期)
- C** 在庫積み増し局面 …… 需要が供給より多くなると、生産を拡大し、在庫を積み増して需要に対応する。  
(景気拡大期)
- D** 在庫積み上がり局面 …… 供給が需要より多くなると、在庫過剰になり在庫の積み上がりが起きる。  
(景気後退初期)

## (1) 生産の動向

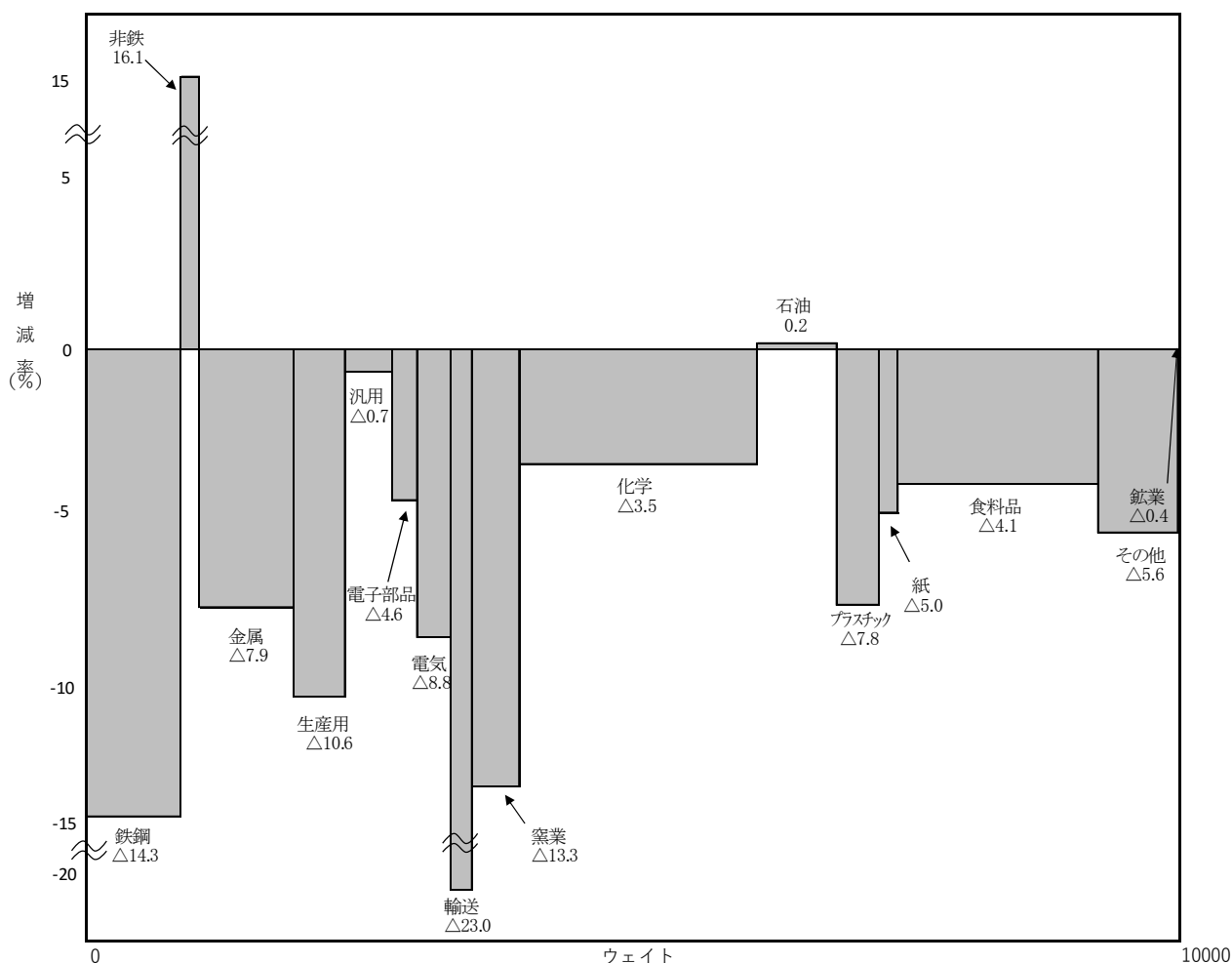
### — 2業種が上昇, 14業種が低下 —

令和2年の生産指数は、91.8で前年比 $\Delta 5.6\%$ と2年連続の低下となりました。

業種別にみると、非鉄金属工業（前年比16.1%）、石油・石炭製品工業（同0.2%）の2業種が上昇し、輸送機械工業（同 $\Delta 23.0\%$ ）、鉄鋼業（同 $\Delta 14.3\%$ ）、窯業・土石製品工業（同 $\Delta 13.3\%$ ）等14業種が低下しました。

（第3図参照）

第3図 業種別生産指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の生産指数の前年比増減率を表している。
2. グラフの中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（部分）は、各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次の通り略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [生産用]…生産用機械工業  
 [汎用]…汎用・業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業 [電気]…電気・情報通信機械工業  
 [輸送]…輸送機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業  
 [プラスチック]…プラスチック製品工業 [紙]…紙・紙加工品工業 [食料品]…食料品工業  
 [その他]…その他工業

## (2) 出荷の動向

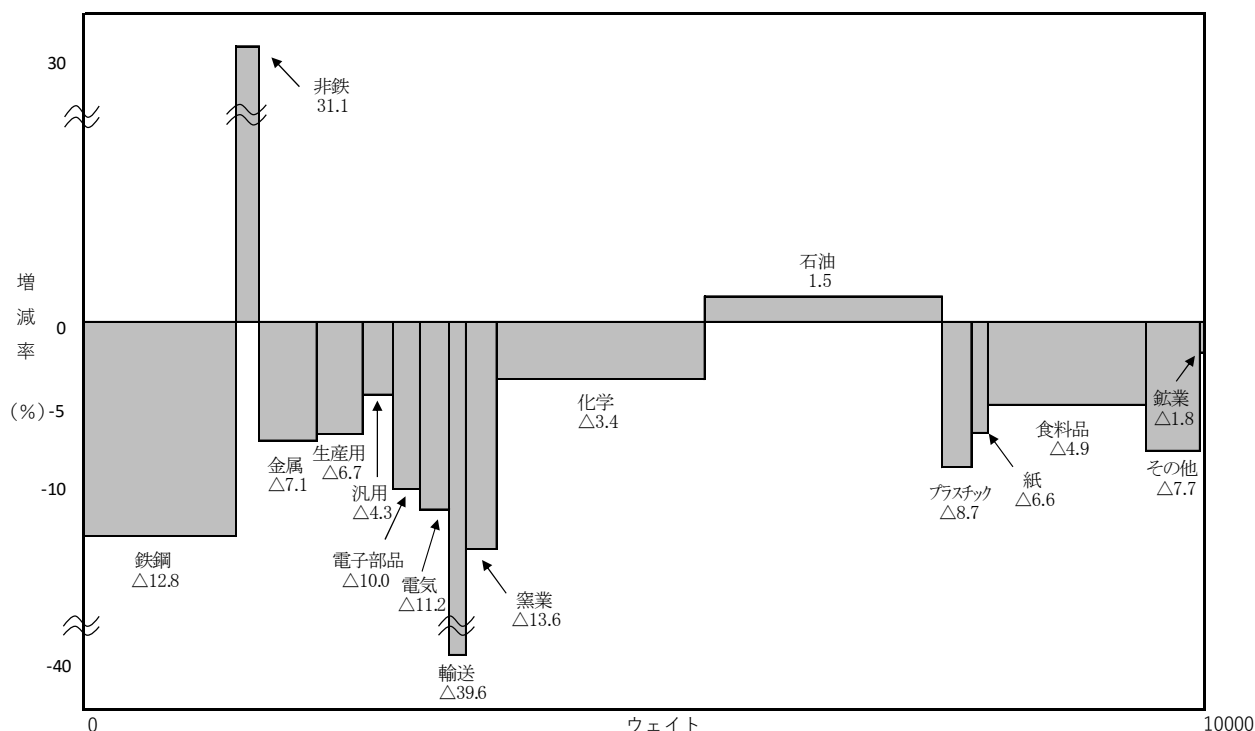
### — 2業種が上昇, 14業種が低下 —

令和2年の出荷指数は、91.3で前年比 $\Delta 4.2\%$ と2年連続の低下となりました。

業種別にみると、非鉄金属工業（前年比 $31.1\%$ ）、石油・石炭製品工業（同 $1.5\%$ ）の2業種が上昇し、輸送機械工業（同 $\Delta 39.6\%$ ）、窯業・土石製品工業（同 $\Delta 13.6\%$ ）、鉄鋼業（同 $\Delta 12.8\%$ ）等14業種が低下しました。

（第4図参照）

第4図 業種別出荷指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の出荷指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積(■部分)は、各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次の通り略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [生産用]…生産用機械工業  
 [汎用]…汎用・業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業 [電気]…電気・情報通信機械工業  
 [輸送]…輸送機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業  
 [プラスチック]…プラスチック製品工業 [紙]…紙・紙加工品工業 [食料品]…食料品工業  
 [その他]…その他工業

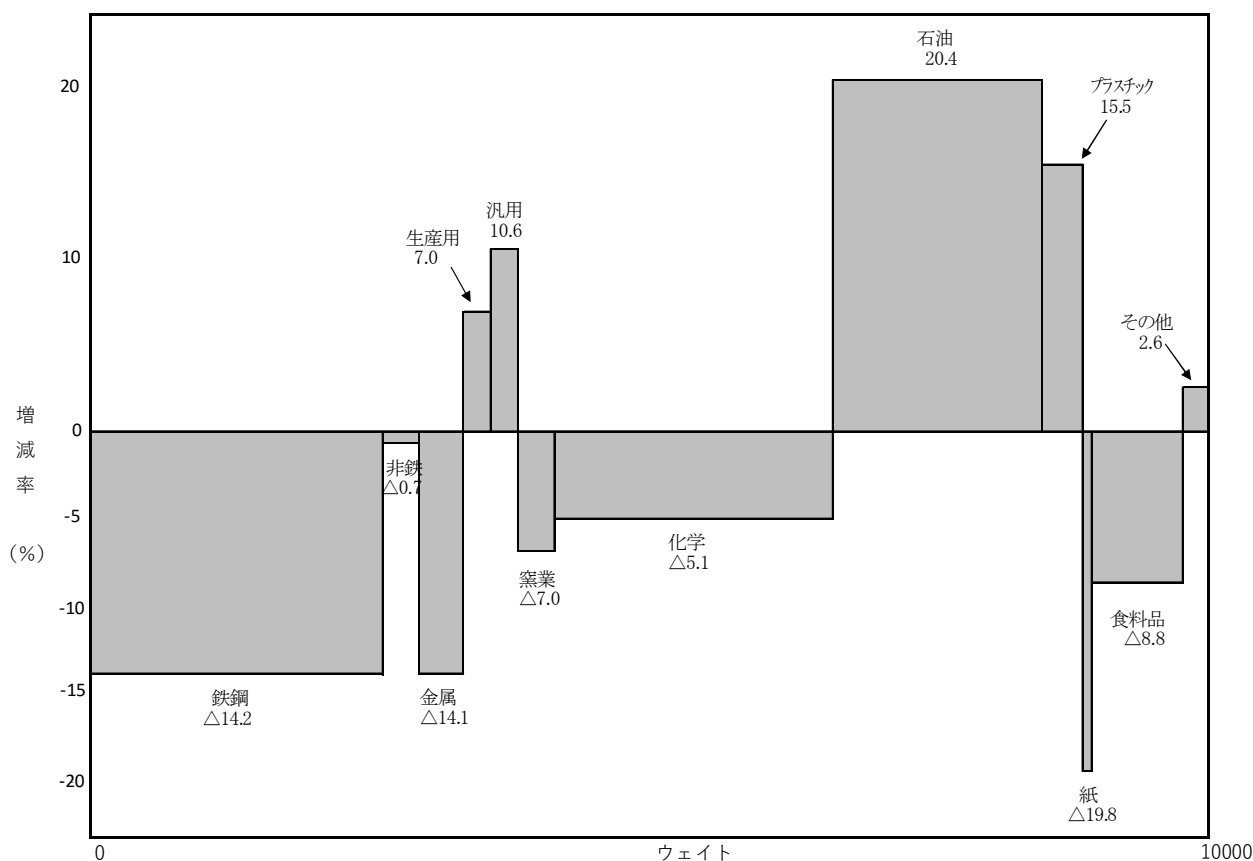
### (3) 在庫の動向

#### — 5業種が上昇, 7業種が低下 —

令和2年の在庫指数は、90.2で前年比 $\Delta 2.7\%$ と2年連続の低下となりました。業種別にみると、石油・石炭製品工業（前年比20.4%）、プラスチック製品工業（同15.5%）、汎用・業務用機械工業（同10.6%）等5業種が上昇し、紙・紙加工品工業（同 $\Delta 19.8\%$ ）、鉄鋼業（同 $\Delta 14.2\%$ ）、金属製品工業（同 $\Delta 14.1\%$ ）等7業種が低下しました。

(第5図参照)

第5図 業種別在庫指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の在庫指数の前年比増減率を表している。
2. グラフの中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積(■部分)は、各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次の通り略している。  
 [鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [生産用]…生産用機械工業  
 [汎用]…汎用・業務用機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業 [化学]…化学工業  
 [石油]…石油・石炭製品工業 [プラスチック]…プラスチック製品工業 [紙]…紙・紙加工品工業  
 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

# 利 用 上 の 注 意

## 1 基準時

平成27年（2015年）を基準年としています。

指数値は、平成27年＝100.0とした数量指数で表示し、ウェイトは平成27年の産業構造によって算出しています。

## 2 用語の表示

「鉱工業生産指数」，「鉱工業生産者出荷指数」，「鉱工業生産者製品在庫指数」，「鉱工業生産者製品在庫率指数」をそれぞれ「生産指数」，「出荷指数」，「在庫指数」，「在庫率指数」と略記しています。

また，「1～3月期」，「4～6月期」，「7～9月期」，「10～12月期」をそれぞれ「Ⅰ期」，「Ⅱ期」，「Ⅲ期」，「Ⅳ期」と略記しています。

なお，平成31年・令和元年第Ⅱ四半期（4月～6月期）は「元年Ⅱ期」と表記しています。

## 3 指数値等の表示方法

(1) 指数値は、暦年別及び四半期別に算出し、表示しています。

(2) 暦年指数値及び前年比は、原指数によって算出し、表示しています。

(暦年指数値は、1～12月各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、年末の指数値です。)

(3) 四半期指数値及び前期比は、季節調整済指数によって算出し、表示しています。

(四半期指数値は、期内各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、期末の指数値です。)

(4) 各数値の掲載単位未満は、すべて四捨五入しています。